

# 日韓初対面会話の質問による話題導入の対照研究 ポライトネスの観点から

林 河 運

## 要 旨

本研究は、日韓初対面会話の質問による話題導入の対照研究を、ポライトネスの観点から行っている。質問の種類は、(1) mixed politeness strategy、(2) negative face politeness strategy、(3) positive face politeness strategy の3種類に分類されている。また、質問の種類は、(1) mixed politeness strategy、(2) negative face politeness strategy、(3) positive face politeness strategy の3種類に分類されている。

キーワード.....ポジティブ・フェイス ネガティブ・フェイス ミックス・ポライトネス

## 1 はじめに

近年ワールドカップと韓流ブームに伴い、日本と韓国との間にも様々な分野での交流が活発になり、両国を行き来する人が増えつつある。それらにより、日本語母語話者と韓国語母語話者が接触し、会話をする機会が多くなっている。日本語と韓国語は語順を含めた文法構造や語彙構造が大変類似している。それゆえに、韓国語母語話者にとって日本語は、また日本語母語話者にとって韓国語は、もっとも学びやすい外国語の一つであると言われている。しかし、会話を続けていると、相手との関係をうまくはかれず、しばしば不安感を与えることがないだろうか。このようなことは多くの韓国語母語話者が、日本語母語話者と接する際、または日本語母語話者が、韓国語母語話者と接する際に感じていることのように思われる。

このような現象は文化的背景を異にする日本語母語話者と韓国語母語話者がそれぞれ違ったことを話したり、聞いたりしながら成長し、互いに異なる会話のストラテジーを身につけたことが原因の一つであると考えられる。

そこで本研究では、いわゆる会話のストラテジーの一つとして、日韓初対面会話における質問による話題導入の場面を取り上げ、それらに関して日韓の間にどのような類似点と相違点があるのかを明らかにしたい。

## 2 先行研究

先行研究としては、パーガー他(1976)のアメリカ人対象の意識調査によって、話題として使われないのが年収、年齢、家族や自分に関する社会的に否定的な情報であると指摘している。

宇佐美(1993、1994、1995、1996、1998)の一連の研究では、日本人同士では年上の者が話題導入を多く行い、その形式は質問形式が多いと指摘している。

また、三牧(1999a、1999b)の調査研究では、日本人大学生男女の初対面会話における話題選択のスキーマが確認され、また、男女差では男性の方が自己に関して多く話す傾向が確認されたとしている。

さらに、奥山・泉(1999)、奥山(2000)の日韓それぞれの女子大生同士の実際の初対面会話のデータ分析からは、韓国人女性の方が身上調査質問を多く行い、また疑問詞を使う頻度も日本人より高いと報告している。

しかし、初対面会話を日本人同士、韓国人同士、日韓接触会話を比較した研究は筆者の知る限りではまだまだ少ない。

## 3 研究方法

### 3.1 会話資料

本研究では同年代の初対面同士の会話を、各々の初対面の2人組にボイス・レコーダを渡し、自己紹介から始めて自由に会話をしてもらい、それぞれ約10分から15分間の会話を2005年3月から2007年3月にかけて収集した。

初対面会話のインフォーマントは、日本人19名(男性5名、女性14名)及び韓国人19名(男性13名、女性6名)に依頼して行った。採集した言語は日本語と韓国語であり、日本語母語話者のデータと日韓接触会話のデータは日本語で、韓国語母語話者のデータは韓国語で収集した。なお、インフォーマントの年齢は20才~28才と限定しているし、会話資料を収集した時点では、初対面接触会話のJFO(27才:会社員)を除いた、全員20代の大学・大学院生である。

インフォーマントの詳細については以下の表1.に示す。

表 1. 初対面の会話資料の組み合わせ

	場面	ベース	対話相手	会話数
会話 1	日本人同士	JFA(21 才)	JFD(25 才)	10 会話
会話 2		JFA(21 才)	JFE(24 才)	
会話 3		JFA(21 才)	JFF(20 才)	
会話 4		JFB(21 才)	JFG(20 才)	
会話 5		JFB(21 才)	JFH(20 才)	
会話 6		JFB(21 才)	JFI(20 才)	
会話 7		JFC(21 才)	JFJ(20 才)	
会話 8		JFC(21 才)	JMC(19 才)	
会話 9		JMA(21 才)	JFK(20 才)	
会話 10		JMB(22 才)	JMD(20 才)	
会話 11	韓国人同士	KMA(27 才)	KFB(28 才)	10 会話
会話 12		KMA(27 才)	KFC(27 才)	
会話 13		KMA(27 才)	KMC(25 才)	
会話 14		KMA(27 才)	KMD(24 才)	
会話 15		KMB(26 才)	KME(23 才)	
会話 16		KMB(26 才)	KMF(23 才)	
会話 17		KMB(26 才)	KMG(21 才)	
会話 18		KFA(21 才)	KMH(25 才)	
会話 19		KFA(21 才)	KMI(24 才)	
会話 20		KFA(21 才)	KMJ(24 才)	
会話 21	接触会話	JFA(27 才)	KFA(27 才)	10 会話
会話 22		JFA(27 才)	KFB(27 才)	
会話 23		JFA(27 才)	KMA(25 才)	
会話 24		JFA(27 才)	KMB(24 才)	
会話 25		JMA(24 才)	KMC(23 才)	
会話 26		JMA(24 才)	KFC(24 才)	
会話 27		JFB(21 才)	KFA(27 才)	
会話 28		JFB(21 才)	KMD(23 才)	
会話 29		JFB(21 才)	KMA(25 才)	
会話 30		JFC(21 才)	KMA(25 才)	

注：話者記号は 3 文字で表す。初めの記号は国籍で、J は日本を表す。次の記号は性別で、F は女性を、M は男性を表す。最後のアルファベットは通し番号である。なお、     はベースのインフォーマントのうち、複数調査したことを示す。(筆者作成)

## 3.2 分析方法

### 3.2.1 文字化の方法

上記の方法で収集された会話資料の文字化及び分析の処理は、宇佐美(2003)「改訂版：基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」に基づいておこなった

が、一部独自の記号を筆者が付け加えた。会話の文字化は、日本語と韓国語ともに2次チェック<sup>1)</sup>までおこなった。主な記号は以下のとおりである。詳しくは宇佐美(2003:4)を参照されたい。

<記号凡例>

BTSJ で用いられる記号を以下にまとめる。はじめに、BTSJ に基づいて文字化する際の基本的な記号を挙げる。しかし、BTSJ はその名の通り、「基本的な文字化の原則」であり、特定の研究の目的に応じて、例えば、より詳細な音声情報を付加するなど、BTSJ を基本にしつつも、特定の目的に適した独自の記号を設けることを奨励するものである。

質問と自己開示による話題導入や友人同士の話題導入の発話文につける。なお、その話題導入の発話文すべてを太文字に表す。

【 【 】 】 第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合は、「【 【 】 】」をつける。結果的に終了した第1話者の発話文の終わりには、【 【 をつけ、第2話者の発話文の冒頭には 】 】をつける。

# # # 聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、# マークをつける。

= = 改行される発話と発話の間(ま)が、ほとんどが全くないことを示す。

[ 複数行に跨る括弧は会話参加者たちの発話が重なっていることを示す。  
(筆者独自の記号である)

波線 発話者が笑いながら話していることを示す。  
(筆者独自の記号である)

傍線 通常より小さな声で話していることを示す。(筆者独自の記号である)

傍線 通常より大きな声で話していることを示す。(筆者独自の記号である)

h h 呼気音は、hh で示される。h の数はそれぞれの音の相対的な長さに対応している。(筆者独自の記号である)

.h h 吸気音は、.hh で示される。h の数はそれぞれの音の相対的な長さに対応している。(筆者独自の記号である)

ABC 会話の途中に出てくる「ABC」のようなアルファベットは人名や知名など、被験者のプライバシーの保護のために、イニシャルとして示す。  
(筆者独自の記号である)

出典：宇佐美（2003）「改訂版：基本的な文字化の原則（Basic Transcription System for Japanese：BTSJ：以下、BTSJ）」『多文化共生社会における異文化コミュニケーション教育のための基礎的研究』、平成 13 - 14 年度 科学研究費補助金 基盤研究 C（2）（研究代表者：宇佐美まゆみ）、研究成果報告書、pp.4-21 から抜粋。

### 3.2.2 データの分析方法

初対面の人と会話を続けることは容易なことではない。少しでも打ち解け、共感を示し合いながら会話をスムーズなものにしていくために、初対面会話の参加者はどのような方法や手段を用いているのであろうか。

宇佐美（1995）によれば、円滑なコミュニケーションに関与しているのは、言語形式としての敬語の使用のみではなく、話題導入の頻度や形式・あいづち・スピーチレベルシフト・ターンテイクなどの、いわゆる談話レベルにおける会話のストラテジーが、対人コミュニケーションを円滑に進めるために重要な役割を果たしていると指摘している。また、Berger(1979)は、初対面の相互作用の相手との不確実性を減少させるための情報収集ストラテジーを受動的、能動的、相互作用的<sup>2)</sup>の 3 つのストラテジーに分け、さらに相互作用的ストラテジーを自己開示、質問及び欺瞞看破<sup>3)</sup>の 3 つに分けている。そこで、本研究では、そのうち質問による話題導入に注目し、初対面の会話をポライトネスの観点から日韓対照分析をおこなう。

## 4 本研究における「話題導入」の定義

従来から、「話題」（テーマ、トピック）については、いろいろな研究者が様々な定義をおこなっているが、本研究では「話題」を三牧(1999b)に倣い、「会話の中で導入され展開された、内容的に結束性を有する事柄の集合体であり、会話参加者の相互協力によって枠組みが設定され展開されるもの」と捉えた。従って、「話題導入」は、1 つの「枠」が始まる発端となった発話と捉えている。また、本研究では、「話題導入頻度」を、会話の進行権を握っていることの指標として捉えること、初対面会話では一つの話者が深く掘り下げられることが少ないという報告（Usami1994；宇佐美 1993；宇佐美・嶺田 1995）などを参考に、一つの話者の枠を、比較的細かく捉えた。よって、話題の移行、変更、以前の話者への回帰などのきっかけとなる発話は、すべて「話題導入」としてカウントした。

話題導入については、筆者と第二認定者<sup>4)</sup>とで合議の上、カウントしていった。

## 5 「質問による話題導入」の分析及び考察

本研究では、Brown & Levinson (1987) のようなもっぱら聞き手側のフェイスを念頭に置いたものではなくて、話し手と聞き手の両方のフェイスを用いて分析していきたい。つまり、Brown & Levinson のような聞き手のフェイスへの脅威を回避しようとする姿勢ではないことを改めて強調しておく。なお、本章では本研究での新しいフェイス概念とポライトネスの再定義によって、以下のような Brown & Levinson の問題点を解決することにする。

その後、その概念に従って、初対面会話の質問による話題導入の場面に注目し、日本語母語話者、韓国語母語話者、日韓接触会話、の順に考察していきたい。

### < Brown & Levinson の問題点 >

Brown & Levinson は発話行為の種類を基準にして、例えば「要求」は本質的にネガティブ・フェイスに対する FTA と言う。しかし、発話行為を一連の談話の固まりとして捉えると、とりわけ「断り」談話や「不満」談話においては、相手のポジティブ・フェイスとネガティブ・フェイスの両方に対する緩和的配慮(redress)が現れることがある。

Matsumoto(1988)が指摘するように、Brown & Levinson のネガティブ・フェイスの概念は、会話の自己決定権の概念の強い英語圏などに比して、集団の中で自分の位置付けが重要である、集団調和的な日本、韓国の社会・文化においては、個人主義的な縄張りという概念自体の重要度が希薄なのではないかという点である。

Leech(2003: 113)で指摘があるように、人間はまさに常にポライトというわけではないのである。

宇佐美(2001)が指摘するように、一発話行為レベル、多くていくつかの発話行為の連鎖(sequence)レベルの分析に留まっており、より長い談話におけるポライトネスをうまく説明できない。

第一の問題点は、Brown & Levinson のようにもっぱら聞き手側のフェイスを念頭に置いたものではなくて、話し手と聞き手の両方のフェイスを用いて分析することによって解決する。

第二の問題点は、フェイスの規範的側面を取り入れた「フェイス」の再定義によって解決する。

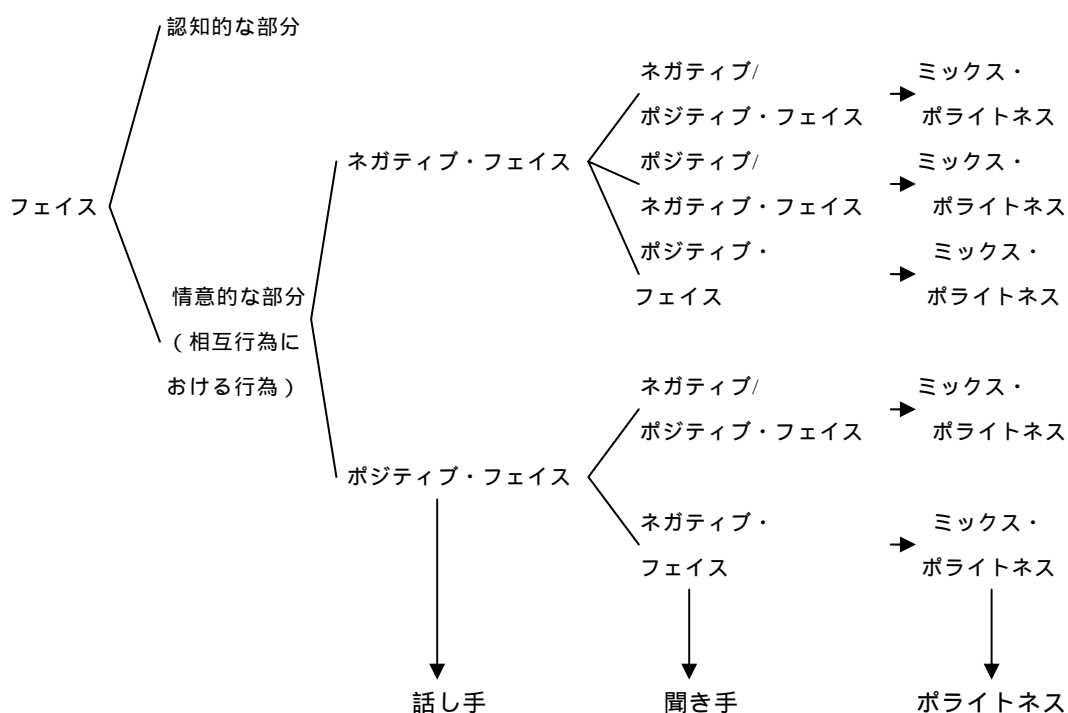
第三の問題点は、「ポライトネス」の再定義によって解決する。

第四の問題点は、文レベル、発話行為レベルではなくて、談話レベルでポライトネスを分析することによって解決する。

### 5.1 新しいフェイス概念とポライトネスの再定義

まず、新しいフェイスの概念について述べることにする。

「フェイスとは人が自身について心理的に構築するもので、認知的な部分と情意的な部分から成り、前者は自分についての肯定的認識を、後者はその認識に対しての評価・尊重を求める願望を指す」。ここで、強調しておきたいのは、フェイスは、人の意識の中で内的に独立して存在するものではなく、相互行為の場面において存在するという点である。つまり、会話参加者はお互いのフェイスを守るという前提に立って、会話を始めるのである。そして、会話が進むにつれ、時間、場面、脈絡によってフェイスのやり取りを調整しながら談話が成立していくのである。上記で述べた「フェイスの概念」をまとめてみると、以下の通りである。



注： 、 はミックス・ポライトネスのパターンを表す。

そして、次は本研究での「ポライトネスの再定義」について述べることにする。

本研究では、「ポライトネス」を、「円滑な人間関係を確立・維持するために、談話の中で会話参加者達が相互のフェイスに注意を払うこと」と定義する。

なお、「ミックス・ポライトネス」は二つのパターンがある。一つは、話し手のフェイスと聞き手のフェイスの両方のフェイスに注意を払うミックス・ポライトネス、もう一つは、話し手

のフェイスと聞き手の中で混じっている、つまりミックしているフェイスの両方のフェイスに注意を払う、という二つのパターンである。要するに、「ミックス・ポライトネス」というのは、聞き手がミックしている場合と、話し手と聞き手でミックになる場合と両方の場合を含んでいる。詳細は以下の表 2. に示す。

表 2. ミックス・ポライトネスのパターン

	話し手	聞き手
パターン 1	P	N・P
	N	P・N
パターン 2	N	N・P
	P	N
	N	P

注：ここでの P はポジティブ・フェイスで、N はネガティブ・フェイスを表す。なお、前の方がより大きな要因になるフェイスである。

## 5.2 初対面会話の質問による話題導入の頻度

本節では、日韓母語話者同士と接触会話の初対面会話の質問による話題導入の頻度を示すことにする。詳細は、以下の表 3、表 4、表 5、表 6、表 7、表 8 と図 1、図 2、図 3、図 4 のとおりである。

表 3. 日韓母語話者同士の質問による話題導入の頻度

話題導入の区分	質問による話題導入の頻度	
	日本語母語話者同士	韓国人母語話者同士
質問による話題導入	222 回	215 回
話題導入の合計	295 回	300 回

表 4. 日韓母語話者同士の質問による話題導入の種類別の頻度

質問文の区分	日韓初対面会話の質問による話題導入の頻度	
	日本語母語話者同士	韓国語母語話者同士
WH 疑問文	47	61
Y・N 疑問文	115	99
後置疑問文	18	12
中途終了疑問文	39	39
選択疑問文	3	4
質問による話題導入の合計	222	215



表 5. 日韓母語話者同士の質問による話題導入の和らげ表現<sup>5)</sup>の頻度

和らげ表現の区分	日韓初対面会話の質問による話題導入の和らげ表現の頻度	
	日本語母語話者同士	韓国語母語話者同士
ノダ文	51	39
～ね / ～よね文	19	18
ノダ文 + ～よね文	3	1
～かね文	3	1
～とか文	1	
ノダ文 + ～かね文	3	
合計	80	59

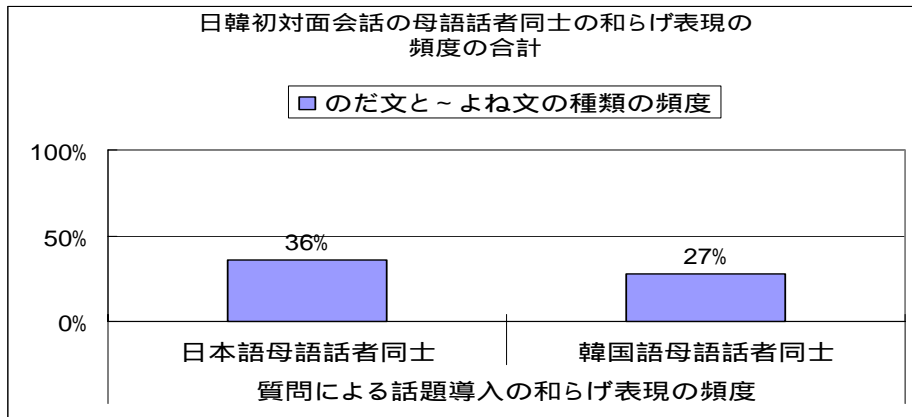


図 1. 日韓母語話者同士の質問による話題導入の和らげ表現の頻度の合計

表 6. 日韓初対面接触会話の質問による話題導入の頻度

話題導入の区分	質問による話題導入の頻度	
	日本語母語話者同士	韓国人母語話者同士
質問による話題導入	46 回	113 回
話題導入の合計	259 回	259 回

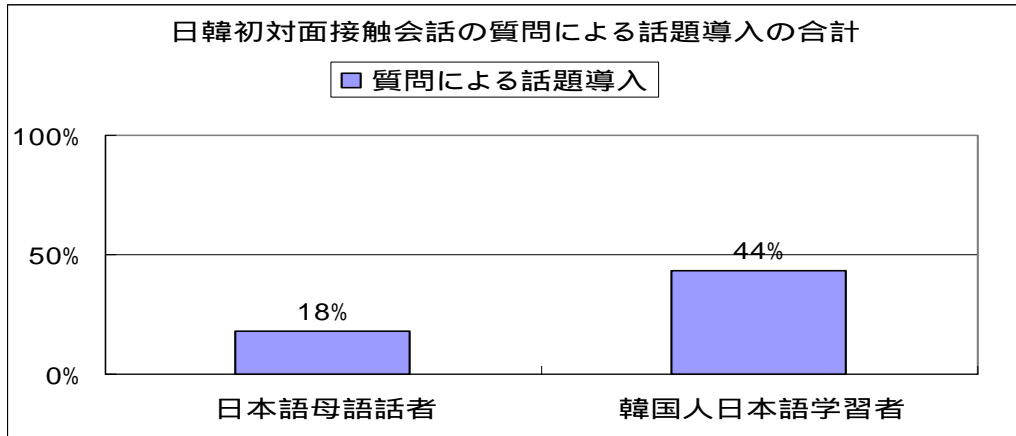


図 2 . 日韓初対面接触会話の質問による話題導入の頻度の合計

表 7 . 日韓初対面接触会話の質問による話題導入の種類の種類

質問文の区分	日韓初対面接触会話の質問による話題導入の種類の種類	
	日本語母語話者	韓国人日本語学習者
WH疑問文	14	27
Y・N疑問文	26	48
後置疑問文	3	6
中途終了疑問文	3	32
合計	46回	113回

表 8 . 日韓初対面接触会話の質問による話題導入の和らげ表現の種類

質問文の和らげ表現の区分	日韓初対面接触会話の質問による話題導入の和らげ表現の種類	
	日本語母語話者	韓国人日本語学習者
のだ文	15	20
～ね / ～よね文	5	3
のだ文 + ～よね文	2	5
～かね文		1
のだ文 + ～かね文		2
合計	22	31

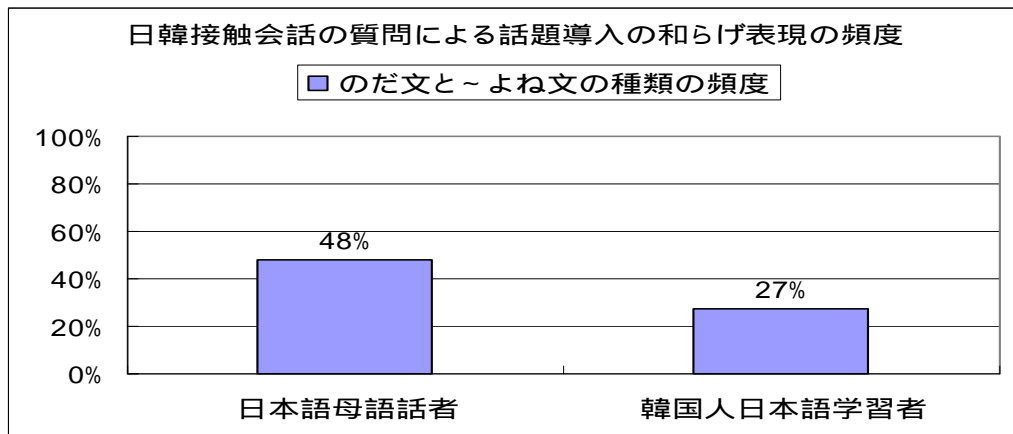


図 3. 日韓初対面接触会話の質問による話題導入の和らげ表現の頻度の合計

### 5.3 日本人同士の場合

日本人同士の初対面会話の質問による話題導入は、5 章での自己開示による話題導入の場面と同様に、質問者のネガティブ・フェイスにより多くの注意を払うポライトネス・ストラテジーをとっているのである。以下で、実際のデータを見ながら考察していきたい。

< 会話 10：お互いに何年生・何学部・何科であるかを聞いている場面 >

**JMD1：何年生ですか？。**

JMB1：今 4 年生です。

JMD2：あ 4 年生

JMB2： { 何か。何年生ですか？。

JMD3：今 2 年生です。

**JMB3：え、今日誰の紹介で？。**

JMD4：あっ、あの韓国語の、

JMD5：あー { KSR せんせい。

JMB4： { KS・あー——— 僕もです。

JMD6：あ そうなんですか。

JMB5：はい。

JMD7：はーなんか・うん、流れて { そうなっちゃいました。

JMB6： { う————ん。

JMB7：あ、せんせいいったん軽く、あーいいですよってゆったら、急にほんとだった  
だろうね。

**JMD8：= 人文学部ですか？。**

JMB8：（飲み物を飲みながら）経済です。

JMD9: あけいざい#。

JMB9: なに人 文・?。

JMD10: 人 文ですはい。

JMB10: 人文の何科ですか?。

JMD11: 地域文化。

JMB11: あーわかかんないですけど ねへふちいきぶんかハハ いや地域文化は知ってる

JMD12: わかかんないですかハハ。

JMB11-1: んですけど、#地域文化について わしく知って る##ハハ。

JMD13: あ-----。

JMD14: けいざい・・かな経済、経営があるんですか?。

JMB12: あー そうです、一応、経済学ですけど、hh。

日本語母語話者同士の質問による話題導入の場合、<会話 10>のような展開の会話を耳にすることが多いと思う。WH 疑問文を使ってはあるものの、一つ一つの会話が短く、質問した側が相手の答えを繰り返して受たり、先に質問された相手が同様の質問をすぐにおこなったりと相互性のバランスがとれている。また、一人の話者が一人で話し続けることは少ないので、聞く側がじっと耐えて聞かなければならないという負担があまりない。これは、質問者ができるだけ早く打ち解けたいという自分のポジティブ・フェイスを使ってはいるが、質問される相手にかかる圧力を小さくしようとする、相手の両方のフェイスのうち、ネガティブ・フェイスにより多くの注意を払うというポライトネス・ストラテジーをとっていると考えられる。つまり、「相手のテリトリーを守りながら接近する」という質問される側のネガティブ・フェイスにより注意を払っているのである。

#### 5.4 韓国人同士の場合

韓国人同士の初対面会話の質問による話題導入も、自己開示による話題導入と同様に、質問者と質問される側の両方のフェイスに注意を払うパターンである。つまり、ミックス・ポライトネスを使っているのである。しかし、韓国人同士の会話では、相手のフェイスにも配慮するけれど、どちらかという自分のフェイスを重んじる、質問者のポジティブ・フェイスにより多くの注意を払うポライトネス・ストラテジーをとっているのである。以下は、実際のデータを見ながら考察していきたい。

<会話 18: KFA が KMH に続けて質問をしている場面>

KFA1: ?。 ;遊びにこられたんですか?。

KMH1: - - -, =

; あい、ガールフレンドも会いにきたしー, , =

KFA2:= . ; あ学校まだ帰国し・じゃないんですか？。

KMH2: . ; もう卒業しなくちゃもうもうー。

KFA3: --- ; あー---

KMH3: 【 . ; 卒業し卒業はもうやっと卒業は。  
KFA4: 】 ? , . ; いつ来られましたか？、今回えい。

KMH4: 7 15 가 . ; 今回は 7 月 15 日だったのかな その頃来たような気がしますけど。

KFA5: , ( ), 8 1 ( ) . ; それで、もうそろそろ、違う (う)、いや違う もう 8 月 1 日だよ(う)。

KMH5: 2,3 가, . ; これからも約約 2、3 週間いながら、遊んでから帰るつもりです。

KFA6: -- ; あー。

KMH6: , 가 . ; あのこれからあそこ、大学大学院いくんですよ。

KFA7: ? . ; 韓国でですか？。

KMH7: , . ; いいえ、日本です。

KFA8: ? . ; どの大学ですか？。

KMH8: - -, KS [ . ; あそこ、KS そちらにあるものなんですけど。

KFA9: --- . ; あー---羨ましい。

KMH9: . ; あ。

韓国人同士の質問による話題導入の場合、〈会話 18〉のような展開の会話を耳にすることが多い。〈会話 18〉の KFA が KMH に一方的に「遊びにこられたんですか？。・いつ来られましたか？。・韓国でですか？。・どの大学ですか？」のように、質問を次々としているのが分かるだろう。これは、韓国人が「無視されて恥辱を感じる」ときは、相手から関心をもたれなかったときが多いと言われている。だからこそ自己の相手に対する関心を表明するために、質問を繰り返しておこなうわけである。また、KMH3 の話が中止されているのに、KFA4 は次の新たな質問をおこなっているのが分かるかと思う。つまり、韓国人同士の質問による話題導入の場合は、質問者自身のポジティブ・フェイスに積極的に働きかけるという、質問者のポジティブ・フェイスにより多くの注意を払うポライトネス・ストラテジーをとっていることになるのである。

## 5.5 接触会話の場合

上記の考察から、日本人は、質問者が親しくなりたいという自分のポジティブ・フェイスを使ってはいるが、相手にかかる圧力を小さくしようとする、つまり、「相手のテリトリーを守りながら接近する」という質問される側のネガティブ・フェイスにより多くの注意を払うポライトネス・ストラテジーを、一方、韓国人は、どちらかという、相手にかかる圧力を小さくしようとするのではなく、自己の相手に対する関心を表明するために、次々と質問を繰り返しおこなうわけである。つまり、質問者のポジティブ・フェイスにより多くの注意を払うポライトネス・ストラテジーをとっていることが明らかになった。以下は、日韓初対面接触会話でも同様な結果が出るのかを考察していきたい。まず、韓国人日本語学習者を見ていき、その後、日本人の場合を見ていくことにする。

### 5.5.1 韓国人日本語学習者の場合

< 会話 30 : KMA が JFC に続けて質問をしている場面 >

**KMA1 : で、NG 出身ですか？。**

JFC1 : 私、IK、県と、

KMA2 : IK ですか。

JFC1-1 : NG の、隣の隣、

KMA3 : うーん。

JFC1-2 : ですね、ちょっと、ふとっ、て・飛び出た、地図みたらすぐ分かるんですけど。

KMA4 : えへー、うーうん。

JFC2 : そうですね。

**KMA5 : え、(う) そして一人暮らしですか？。**

JFC3 : はい、そうです。

KMA6 : へー。

JFC4 : フフフン。

KMA7 : 〔 大変 ですね。

JFC5 : 〔 なれ、

JFC5-1 : 慣れました。

KMA8 : あ、そうですか。

JFC6 : はい、〔 二年目なので、はい。

KMA9 : 〔 二年目ですね、はい あー。

JFC7 : 〔 ## 1人ですよ？。

KMA10 : 〔 ##。

KMA11 : はい 〔 八八八八。

JFC8 : 〔 八八八八。

**KMA12 : え、クラブとかは？。**

JFC9 : まあ、〔 ピアノの練習があるので。

KMA13 : 〔 かんげんー、

KMA13-1 : あじゃー###。

JFC10 : なん・うん、入っても出る時間がない・ん 〔 だろ うなーと思って、なんにもホ。

KMA14 : 〔 えー。

**KMA15 : そしたら家にピアノとか、ありますか？。**

JFC11 : あー私ないんですけど。

KMA16 : ないんですか 。

JFC12 : あ、あの学校にたくさん。

KMA17 : あー。

< 会話 30 > の韓国人日本語学習者が日本語母語話者に「出身、一人暮らし、クラブ、ピアノの有無」を次々と質問しているのが分かるだろう。韓国人同士の例からも分かるように、聞き手への「関心」という概念こそが韓国人の初対面会話では重要であると考えられる。だからこそ自己の相手に対する関心を表明するために、質問を繰り返しおこなうわけである。すなわち、接触会話でも韓国人は、質問者のポジティブ・フェイスにより多くの注意を払うポライトネス・ストラテジーをとっているのが観察された。

### 5.5.2 日本語母語話者の場合

< 会話 29 : KMA と JFB がお互いにどんな部活に入ってるかを質問している場面 >

**KMA1 : うクラブとか、入ってますか？。**

JFB1 : クラブー・〔 # 【。

KMA2 : 〔 】【 サ ークル。

JFB2 : ああの一、天文部・〔 に ,,

KMA3 : 〔 え そうすると かんこく じんけっこう(あ)### ,,

JFB2-1 : 〔 入ってる。

JFB3 : いら 〔 しゃったような ### #。

KMA4 : 〔 いたんですけど。

KMA5 : きょ・ねん、今年までですか。

JFB4 : あ私も、. h 私去年・かー昨年ぐらいにやめちゃって ,,

KMA6 : . h そですね。

JFB4-1 : あんまり話す機会もなかったんですけど。

<3秒くらいポーズ>

JFB5: **なんか入ってますか？。**

KMA7: いひゃー剣道部。

JFB6: あはー、剣道部・【】。

日本語母語話者の質問による話題導入の場合、<会話 29>のような会話を耳にすることが多いと思う。つまり、KMA1の「うクラブとか、入ってますか？」という質問を受けた後、JFB5もKMAの話の調子に合わせて「なんか入ってますか？」と質問をすぐにおこなったりと相互性のバランスがとれているのである。これは、質問者が親しくなりたいという自分のポジティブ・フェイスに注意を払いながら、相手にかかる圧力を小さくしようとする、質問される側のネガティブ・フェイスにより多くの注意を払っているポライトネス・ストラテジーをとっていると考えられる。つまり、「相手のテリトリーを守りながら接近する」という質問される側のネガティブ・フェイスに注意をより多く払っているのである。

## 6 まとめ

本研究では、いわゆる会話のストラテジーの一つとして、日韓初対面会話における質問による話題導入の場面を取り上げ、それらに関して日韓の間にどのような類似点と相違点があるのかを比較分析した結果、次のようなことが明らかになった。

(1) 初対面会話における質問による話題導入は、日本人でも韓国人でも質問者と質問される側の両方のフェイスに注意を払うという、ミックス・ポライトネス・ストラテジーを使うことが明らかになった。

(2) そのうち、日本語母語話者の場合、質問による話題導入の頻度の合計は日韓ともに差がないが、質問による話題導入の和らげ表現の頻度では僅かではあるものの、日本語母語話者同士が韓国語母語話者同士より9%上回っていることが見られた。なお、接触会話では、質問による話題導入の頻度の合計が、26%も韓国人日本語学習者より下回っている結果も観察された。しかし、和らげ表現の頻度では日本語母語話者が21%も上回っていることが見られた。つまり、質問者が親しくなりたいという自分のポジティブ・フェイスに注意を払いながら、むしろ、相手にかかる圧力を小さくしようとする、相手のネガティブ・フェイスにより多くの注意を払うポライトネス・ストラテジーをとっていることになる。したがって、日本語母語話者は「相手のテリトリーを守りながら接近する」という質問される側のネガティブ・フェイスにより多くの注意を払うポライトネス・ストラテジーが韓国人母語話者同士より多用されているのが明らかになった。

(3) 一方、韓国語母語話者の場合、相手にかかる圧力を小さくしようとするのではなく、自己の相手に対する関心を表明するために、次々と質問を繰り返しおこなうことが多く観察された。



つまり、韓国語母語話者は話し手である質問者のポジティブ・フェイスにより多くの注意を払うポライトネス・ストラテジーが多用されるのが明らかになった。したがって、積極的に見えるのである。

(4) さらに、「初対面会話の質問する」という場面を Brown & Levinson に沿って考えれば、日本人も韓国人も同じネガティブ・ポライトネス・ストラテジーをとっていることになり、日本人と韓国人との差が見えなかったのである。しかし、質問者と質問される側の両方のフェイスを用いて分析することによって、日本人は質問される側のネガティブ・フェイスにより多くの注意を払うポライトネス・ストラテジーを、一方、韓国人は質問者のポジティブ・フェイスにより多くの注意を払うポライトネス・ストラテジーをとっていることが明らかになった。

< 注 >

- 1) 文字化資料のチェックはもう二人の大学院生（日本人・韓国人各一名）と一緒にいった。なお、日本語は日本語母語話者に、韓国語は韓国語母語話者にチェックしてもらった。
- 2) 一般に会話は話し手と聞き手の相互作用によって成り立つものと捉える。
- 3) 本研究の初対面会話には欺瞞看破はほとんど現れないことがわかったため、欺瞞看破は分析項目から除外する。
- 4) 文字化作業の時と同様に、もう一人の大学院生に多大なるご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。
- 5) 本研究では、ノダ文をはじめ、質問文の文末に使われる「ネ・ヨネ・カネ・トカ」などを、便宜上、話題導入の和らげ表現と呼ぶことにする。

< 参考文献 >

- 宇佐美まゆみ (1993) 「初対面二者間会話における会話のストラテジーの分析: 対話相手に応じた使い分けという観点から」『学苑』647, 昭和女子大学近代文化研究所, pp.37-47.
- 宇佐美まゆみ (1994) 「性差か力 (power) の差か: 初対面二者間の会話における話題導入の頻度と形の分析より」『ことば』15, 現代日本語研究会, pp.53-69.
- 宇佐美まゆみ・嶺田明美 (1995) 「対話相手に応じた話題導入の仕方とその展開パターン: 初対面二者間の会話分析より」『名古屋学院大学日本語学・日本語教育論集』2, 名古屋学院大学留学生別科 (日本論文プログラム), pp.130-145 .
- 宇佐美まゆみ (1996) 「初対面二者間会話における話題導入頻度と対話相手の年齢・社会的地位・性の関係について」『ことば』17号, 現代日本語研究会, pp.44-57.
- 宇佐美まゆみ (1998) 初対面二者間会話における『ディスコース・ポライトネス』『ヒューマン・コミュニケーション研究』26, 日本コミュニケーション学会, pp.49-61.
- 宇佐美まゆみ (2001) 「談話のポライトネス ポライトネスの談話理論構想」『談話ポライトネス』第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告書 国立国語研究所編 凡人社, pp.9-58.

日韓初対面会話の質問による話題導入の対照研究(林)

- 宇佐美まゆみ (2003) 「改訂版：基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese : BTSJ : 以下、BTSJ)」『多文化共生社会における異文化コミュニケーション教育のための基礎的研究』平成 13 - 14 年度 科学研究費補助金 基盤研究 C(2) : (研究代表者：宇佐美まゆみ), 研究成果報告書, pp.4-21.
- 奥山洋子(2000) 「韓・日同国人女子大学生同士の初対面の会話」『日本学報』第 45 輯, 韓国日本学会, pp.117-132 .
- 三牧陽子 (1999a) 「初対面会話における話題選択スキームとストラテジー 大学生会話の分析」『日本語教育』103 号, 日本語教育学会, pp.49-58 .
- 三牧陽子 (1999b) 「初対面インターアクションにみる情報交換の対称性と非対称性 異学年大学生間の会話の分析」吉田彌壽夫先生古稀記念論集編集委員会編 『日本語の地平線』くろしお出版, pp.363-376.
- Berger, C. R. Gardner, R. R. Clatterbuck, G. W. & Schulman, L. S. (1976) " Perceptions of Information Sequencing in Relationship Development. " *Human Communication Research*, Vol.3, pp.29-46.
- Brown, P. & S. C. Levinson (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Leech, G. N. (2003) " Towards an Anatomy of Politeness in Communication " *International Journal of Pragmatics* Vol. (日本ブラグマティックス学会), pp.101-123.
- Matsumoto, Y. ( 1988 ) " Reexamination of the universality of face: Politeness phenomena in Japanese. " *Journal of Pragmatics*, Vol.12, pp.403-426.
- Usami, M. (1994) " Politeness and Japanese conversational strategies: Implications for the teaching of Japanese. " Qualifying paper submitted to Harvard University, Graduate School of Education.
- 奥山洋子・泉千春(1999) 「  
」 『  
』 7 ,  
 , pp.83-95.

主指導教員(大石強教授) 副指導教員(船城俊太郎教授・佐藤徹郎教授)